

# 令和7年度 公明党会派 都市行政調査報告

---

◆期間 令和8年2月2日（月）

◆参加議員 大竹口 武光・椎名 成・今野 祐子・工藤 進

◆調査先 北九州市

◆調査内容 Z世代課の取組みについて

## 公明党派行政視察報告

日時 : 令和8年2月2日(月) 9:30~11:00  
視察先 : 北九州市役所(北九州市小倉北区内1番1号)

### 【北九州市概要】

- (1) 人口 : 900,494人(2025年9月1日現在)
- (2) 面積 : 492.5 km<sup>2</sup>

北九州市(きたきゅうしゅうし)は、福岡県北部に位置する市であり、政令指定都市である。福岡市に次ぐ九州地方第2位の都市であり、非都道府県庁所在地においては神奈川県川崎市に次ぐ第2位の人口を有する。面積は福岡県内で最大である。

九州の最北端に位置し、歴史、文化、自然が融合した魅力的な都市であり、豊富なグルメがある、景観のすばらしさが際立つこと、賑わいあり充実したお祭りやイベントが多い、などから訪れる観光客も非常に多い特徴がある。

### 【調査項目】

#### ○全国初！北九州市 Z 世代課について

##### <Z 世代課の背景>

若い世代の転出が多かった

若い世代にとっての魅力的な街づくりが求められる



各分野にまたがる若者施策に横串を刺し、組織横断的で強力で推進



R6年4月に全国初の Z 世代課を新設する！

日本一若者を応援するまち・北九州市！

政策局 Z 世代課 職員 16 名 (うち兼務 12 名) 平均年齢は 28.3 歳

### <Z世代課の目的>

若い世代のニーズ・価値観を学び、時代の変化にスピーディーに対応することで、持続可能な北九州市となる

各担当部署 それぞれの所管分野における若者支援策に取り組む。

例 ひきこもり、就労、移住・定住

Z世代課 取組を通じて学んだ若い世代の価値観や行動傾向を各局へ共有・浸透させる。

各局の施策がより効果的に実施されるよう助言等を行う。

※ Z世代は、おおむねは16歳から30歳くらいをいう。

### <Z世代の特徴は？>

- 自分らしさを大切にする。その場の居心地を楽しむ。
- 承認欲求が強い。評価を気にして保守的になる。指摘を受けると落ち込みやすい。
- 効率性を重視する。システム化の発想が多い。紙ではなくデジタル中心。

その背景は？

- ① 自分に自信がない。ほめられる＝圧。
- ② ほめられた直後に、それを聞いた友達の自分像が変化したり、自分の印象が強くなったりするのを怖がる

例えば、社長賞といった社内表彰制度

(経営層) 社内活性化につながる。

(若手) モチベーションは上がらず、むしろ会社に誘導されている気がして冷める。

↓

若者における横並び意識が強い中で、自分だけが与えられることへの違和感。



若者のためのイベント  
実施が素晴らしい。  
アイデアも良いと  
思った。

## Z世代課パートナーズ制度 創設

経験・特技を生かして  
北九州市を盛り上げたい！  
何か市の役に立ちたい！



### Z世代パートナー

委嘱者 50名（令和8年1月7日現在）

平均年齢 24.8歳

（最年少 17歳、最年長 30歳）

（高校生 3名、大学生※院生含め 18名、社会人 29名）

市内出身 23名、市外出身 27名

▼これまで 38 の案件に対してパートナーを派遣

例 両親がバングラデシュ人で、北九州で生まれ育った。

日本人・外国人・Z世代視点で北九州市を盛り上げていきたい！

例 現在東京大学大学院で研究しているが、育ててくれた北九州市に恩返しをし、気づいたら健康になれるまち・北九州を目指したい。

## <主な質問>

- Q, 転出を止める傾向が見えているのか？
- A, 即効性があるとは言えないが、転出入において改善傾向があるという兆しは見えているのでは？ 議会でも質問をされている。  
成功体験が増えることが大切と思っている。結果的に社会動態、若い人がプラスになればいいと考えている。
- Q, 自分に自信がない、ほめないでほしい、という傾向から、目立ちたくないという印象があるが、成人式のもっとド派手に！というイベントを見ると、そうではないのかなという感じもあるがそのあたりはどうなのか？
- A, ド派手なイベントの方は、目立ちたいという気持ちもあるように見えるが、全体的に目立ちたいというわけではなく、一番はやはり自分らしさを大切にしたいということが強いと思われる。色々なデータを取っている途中である。SNS 上でも見られるのが、横並び意識が強い傾向があるようである。極端に目立ちたくはない。
- Q, 今の時代は若い人の意見に合わせていかなければ未来はないという感覚であるということの良いのか？（離職が増えている）
- A, その通りである。時代の変化についていく必要がある。
- Q, 実際に市の庁舎には若い方が沢山いるのだと思う。若い世代の意識だとか、実際の関わりについては、庁内において高まっているのか？横の連携はどうなっているのか？
- A, 意識や関わりについて、庁内での高まりがある。若い職員と一緒に、という機運が上がっている。
- Q, 若い方の町内会への意識はどうであるか？
- A, 若い方も町内会が何をしているのかわからない、という気持ちは強いようである。
- Q, 成人式のメタバーのイベントは素晴らしい。アクセスはどのくらい

なのか？若い方が興味を持てる内容が良いと思う。

A, こだわりの取組みを実施し、かなりのアクセスがあった。

### <所感>

今回のZ世代課の取組みについては、機関紙の記事を見たことがきっかけで、「帯広市においても若い世代の退職が増えている中、Z世代課の取組みを学び生かしたい。」と強く思い、このたびの視察に至った。

Z世代課設置の目的は、福岡市や首都圏に流出する若者を食い止めるため、若い世代のニーズや価値観を学び、時代の変化に迅速に対応することで、若い世代にとっての魅力的な街づくりを推進し、持続可能な北九州市につなげていこうとするものである。具体的には、各部署が担っている若者支援施策（ひきこもり、就労、移住・定住など）について、Z世代課がその取組みに対する若い世代の価値観や行動傾向を各部署へ共有・浸透させ、効果的に実施されるよう助言等を行っていくというものである。

当課は、Z世代の声をしっかりと聞き、そして若者を必ず巻き込んで取組みを進めていることに感銘を受けた。よく耳にする言葉として、「最近の若い者は・・・。」であるとか、「石の上にも3年というのに、すぐに辞めてしまう」といった考えでしかとらえなかつたりというのが一般的であろうか。北九州市においてはそうではなく、Z世代課を設置し、若い世代の考えをリスペクトして取り入れ、時代の変化についていく。その活動が、庁舎全体としての関わりや考え方を変え、実際に若者が定着し、また、市全体として若者が集まる雰囲気が出ていく。そして、実際にその効果が出てきていると言える状況となっていることに感服した。

帯広市にそのまま当てはめたいと思うが、若者世代の離職の原因は多様であろうから、簡単ではないのかもしれない。本来、若い世代の声を聴くということは大切である一方、接し方次第では現在はハラスメントとなってしまうことも多いとも感じる。市は、古き良き時代と思うばかりではなく、未来のために、時代に即したやり方を創っていくことで、若者の夢は広がっていくと思う。

このたびの北九州市の取組みを元にして、是非帯広市の職員の皆様とも対話をしてみたいし、市長の考えも聞きたいと思う。未来は今の我々

の考え方、やり方によって変わるはずである。

# 令和7年度 公明党会派 都市行政調査報告

---

◆期間 令和8年2月3日（火）

◆参加議員 大竹口 武光・椎名 成・今野 祐子・工藤 進

◆調査先 霧島市

◆調査内容 きりしまMワゴンについて

## 公明党派行政視察報告

日時 : 令和8年2月3日(火) 9:00~11:00

視察先 : 霧島市役所(霧島市国分中央3-45-1)

### 【霧島概要】

(1) 人口 : 122,853人(2027年6月1日現在)

(2) 面積 : 603.17km<sup>2</sup>(2027年6月1日現在)

霧島市は平成17年11月、国分市、溝辺町、横川町、牧園町、霧島町、隼人町、福山町の1市6町が合併し「霧島市」が誕生した。

鹿児島県本土のほぼ中央部に位置し、北部は国立公園である霧島山を有し、南部は豊かで広大な平野部が錦江湾に接し、雄大な桜島を望む。

また霧島山系から錦江湾まで流れる清く豊かな天降川、その流域に広がる豊かな田園、そして山麓から平野部まで温泉群を有しており、海、山、川、田園、温泉など多彩で豊かな地域である。



### 【調査項目】

#### 〇きりしまMワゴンについて

##### <きりしまMワゴンとは>

「きりしまMワゴン」は、時刻表や決まった運航路線がない予約型の乗り合いバスである。予約に応じて人工知能(AI)が最適な経路を導き出し、指定の停留所まで送迎する。

他の利用者から予約が入ると、次の利用者が待つ停留所へと経路を変えながら運行する。

## <経過>

昭和42年自動車保有台数は全国で1,000万台を突破。以来増え続け現在は6,100万台を超える車社会の中、平成23年以降連続で人口が減少しており、公共交通利用者も減少した。

物価高騰による燃料代や賃金アップにより維持管理費が増え、経営悪化につながっている。

また運転手になりたい若者が少なく、運転手不足が深刻化しており、運営が難しくなっている。

霧島市でも民間運営の公共交通である、路線バス・タクシーは減少傾向が続き、代替えとして行政運営の公共交通としてコミュニティバスが運行を始めたが利用者減少により廃止。更に代替えとしてデマンド交通に切り替わり、新展開として「AIオンデマンド交通」である乗り合い交通「きりしまMワゴン」を導入した。



## <公共交通の危機対策として>

○運転手不足の影響・・・ 県内路線バスが令和7年4月から民間2社が97便の減便、鹿児島市交通局は令和7年7月から22本前後の減便発表。

定年を75歳まで引き上げたが平均年齢は70歳と高い。

○市の就労支援…………… 霧島市ではドライバー支援として補助金定額20万円支給の制度を行い、5名増員する事が出来た。しかしその年7名の退職者がありマイナス2名となった。

## <運行概要>

- ・令和5年11月20日から第一次実証運行を開始。
- ・運行区域を一部拡大し、令和6年4月1日から第2次実証運行を開始。
- ・実証運行の課題を踏まえ、適宜運航計画を見直しのうえ令和6年10月11日から本格運行開始。

	①中心市街地エリア	②溝辺エリア
運行曜日	週6回(月火水木金土)祝日運行	週2回(水・金)祝日運行
運行時間	8:30～16:30	8:30～16:30
運行区域面積	約20km <sup>2</sup>	約63.5km <sup>2</sup>
運賃	中学生以下:300円、小学生、障害者、付添人:150円、未就学無料	
利用対象者	事前登録を行った方(小学生以上)	同左
運行車両台数	2台	1台
停留所	・公共施設、商業施設、医療機関の敷地内 ・ごみステーションを停留所として活用	・公共施設、商業施設、医療機関の敷地内 ・ごみステーションを停留所として活用 ・運行廃止のふれあいバス停活用
停留箇所数	161箇所	128箇所
運行业者	タクシー会社2社	タクシー会社1社
きりしまMワゴン運行に伴う既存交通モード減便等	R5.4～市街地循環バスを3割減便 R5.10～地域間幹線系統(鹿児島中央駅～隼人駅・日当山・医療センター～重久車庫)の廃止。	R5.11.20～竹子・三縄・横川線(溝辺ふれあいバス)の一部区間を廃止。 デマンド交通廃止。

### <運航実績>

令和7年1月から12月で中心市街地乗降者数に関しては延べ利用者数が8,805人、1日平均利用者数は38.9人となっており、溝辺地区乗降者数は年間延べ972人、1日平均9.1人となっており、登録者数も合計2,743名でほとんどが口コミで増えている。

年齢構成は70歳、80歳代が約45%を占めているがその他の年代では概ね200名から300名の利用である。

市民からは料金が300円と安価であるため好評であり、市街地、溝江地区ともに走行しているMワゴンは毎日予約がいっぱいの状況である。今後も「きりしまMワゴン」を利用したいという人は84%おり、機会があれば利用したいを含めると96%になるほどの反響がある。

### <主な質問>

Q, スポンサー事業は財源の面で助かると思うが、スポンサー獲得はどのように行ったのか。

A, はじめは地元事業者以案内文を送り、地元のトヨタカーローラが車両の提供してくれ、関係事業者の紹介をいただき 20社集まった。



それ以降は職員が飛び込みで営業する中で、停留場を病院前などに行っていることから患者さんが病院に営業してくれたり、その病院からまた別の事業者を紹介していただき増えていった。

Q, アプリを使うとどのようなメリットがあるのか。

A, ポイントがある程度たまると1回無料になる、誕生月は無料クーポンが届くなどのサービスがある。

Q, 予約のみを対応しているのか何日前から予約できるのか、現金以外も対応しているのか。

A, 全部予約のみ。中心市街地は予約でいっぱいの状況。運転手が休む暇がない。

2週間前から予約できる。現金でもキャッシュレスでも対応する。

Q, 若者の利用状況はどうか。

A, 利用は増えている。習い事に通う際などが多い。しかし営業時間が16時30分までなので伸ばしてほしいとの声もあるところ。

Q, タクシー会社から白タクではないかとのクレームは無かったか。

A, 導入時期がコロナ禍であった事もあり、タクシーが捕まらない時期で市民からのクレームもあり、タクシー会社もはじめは協力的であった。

コロナ禍も収まったころ、タクシー会社とも話し合う中で折り合いを付けているが、県内の他自治体では1年後には委託料を上げたところもある。

### <所感>

物価高騰、運転手不足による公共交通の減便、縮小、廃止は全国的な課題であり、帯広市においても同じような課題を抱えている。

特に交通不便地、運転免許証を持たない人や通学で利用している学生にとっては深刻な問題である。

そのような中、霧島市の時刻表や決まった運行経路が無い予約型の乗り合いバス導入はとても興味深い。特に人工知能(AI)が最適な経路を導き出し、指定の停留所まで送迎する無駄のない経路選択は先進的であり、帯広市でも今後調査研究する価値があると考えます。

しかし、一方では地元バス、タクシー会社の売りに影響する可能性もあり、導入に関してはこれらの問題をクリアする事も必要である。

霧島市の地元トヨタカローラにも車両提供などの協力を得ながらコスト削減も図り、タクシー会社との話し合いの中でスムーズな運営をしている点やAIを使い1回300円で乗車できる点などを参考にして、本市においても新しい市民の足となる公共交通の在り方として、参考にしてまいりたい。



# 令和7年度 公明党会派 都市行政調査報告

---

- ◆期間 令和8年2月4日（水）
- ◆参加議員 大竹口 武光・椎名 成・今野 祐子・工藤 進
- ◆調査先 宮崎市
- ◆調査内容 グリーンスローモビリティ「ぐるっぴー」について

## 公明党会派行政視察報告

日時 : 令和8年2月4日(水) 9:30~11:00

視察先 : 宮崎市役所(宮崎市橋通西1-1-1)

### 【宮崎市概要】

(1) 人口: 約39万人。1924年(大正13年)に市政施行。

(2) 面積: 643.57 km<sup>2</sup>

(3) 宮崎市は平成18年1月1日に近隣の佐度原、田野、高岡の3町を合併し、平成22年3月に、清武町を編入合併。

温暖な気候と豊かな自然、神話の舞台(青島など)に恵まれた、南九州の中核都市である。

プロ野球のキャンプ地としても有名で、近年は宮崎牛や、マンゴーに加え、餃子の購入額が全国1位(2021~2022年)になるなど、“食”の面も人気が高い観光地である。



### 【調査項目1】

#### ○グリーンスローモビリティ「ぐるっぴー」について

- ・時速20km未満で、公道を走ることが出来る
- ・電動車を活用した小さな移動サービス
- ・中心市街地の移動(JR宮崎駅周辺、約2.1km)
- ・運賃は100円(小学生以下は無料)

#### ○運行時間

- ・平日 15分間隔で運行 24便/日
- ・土日祝 12分間隔で運行 34便/日
- ・夏ダイヤ 7月~8月(13時~15時 運休)
- ・運行休止 悪天候時やイベントによる車両通行止め
- ・乗車人数 10人(運転士を含む)

## 【調査項目2】

### ○グリーンスローモビリティ「ぐるっぴー」と、中心市街地の活性化

・宮崎駅から東に車で約 10 分(約 4 km)の郊外に、九州最大級の商業施設がオープンした頃、中心市街地の 25%がシャッター街となり、“中心市街地の活性化”が市の重点施策になり、2020 年(令和 2 年)運行開始。

### ○次世代型まちづくりの推進(宮崎市×NTTグループによる連携協定・開発)

・NTTグループは、通信・ICT技術を活用し、宮崎が目指すウォークブル(歩きたくなる)まちづくりや地域公共交通の利便性向上を支援する「次世代型まちづくり」のパートナーとして連携しています。このようにNTTは通信会社としてだけでなく、地域交通インフラの「維持・活性化という社会課題」の解決において、「ぐるっぴー」の技術・運用面で中心的な役割を果たしている。

### ○NTT広島(通り)ビル再開発と、一体となった“まちづくり”

・NTTの「HAROW(ハロウ)」との連携：NTT西日本宮崎支店の敷地(広島1丁目)を開発して誕生した、複合施設「HAROW」の周辺エリア活性化と「ぐるっぴー」による移動力の利便性向上を組み合わせています。

### ○「ぐるっぴー」の概要

・JR宮崎駅から橋通り周辺を繋いで、「回遊性」を高めることで、中心市街地の活性化を図ることを目的としている。

・高温多湿の気候を考慮し、窓ガラスの

無い(冬季は隙間のあるビニール張り)開放的な電動車で、運転手と乗客のコミュニケーションが弾む乗り物を目指す。

・安全(時速 20 km未満走行の実施)と、酷暑時には、熱中症対策の為、午後 1～3時の運行を中止する措置をとられていることがある。

・地元のバス事業者である宮崎交通が委託を受け、プロの運転手が、運転をしている。又、宮崎市が車両を所有し宮崎交通が運行・運賃徴収の受託



を行なっている。

#### ○「ぐるっぴー」と商店街の連携

- ・ J R 宮崎駅と中心市街地を結び歩行者目線での移動を提供することで、店舗への立ち寄りを促進している。
- ・ 運行沿線の企業や商店街が車体広告(ステッカー)や広告料として協賛し、運営を支えている。

#### ○「歩行者中心」の街づくり

「歩きたくなる.まちなか」の形成を目指す宮崎市の政策「ウォークブル推進」と連携し、時速 20 km未満走行の低速で、安全に移動する空間を提供している。

### 【Q&A】

#### Q1. グリーンスローモビリティの推進事業の目的、経緯について

- A1. 中心市街地の回遊性向上と商店街の賑わい創出が目的で、郊外型店舗への顧客流出に対し高齢者や観光客が安心して街中を移動できる低速・低料金の電動移動手段として導入された。

#### Q2. 宮崎市民以外の人ができるのかと、利用料金について

- A2. 誰でも利用可能。料金は 100 円で小学生以下は無料。

#### Q3. スローモビリティ(ぐるっぴー)への苦情や課題はありますか。

- A3. 現在まで渋滞等、安全面を含めた苦情・クレームはない。  
課題は感染症流行により乗客の減少と運行休止より収入バランス確保および悪天候時や、暑さ対策などに課題がある。

#### Q4. 今後の展開について

- A4. ・ 自転車等と歩行者が錯綜しない安全な空間の構築。  
・ 歩道を活用した、オープンカフェや、イベント開催等による、賑わい「ほこみち」制度の活用。  
・ (中心市街地の回遊性向上や賑わいにより) 民間による店舗の建替

えが進み、敷地内に設けられたオープンスペースにおいては、テラス席を設けるなど、1階テナントによる日常的な賑わいが滲み出すような仕掛けが行われている。

- ・企業が集積するエリアでは、多様な人の交流が生まれている。

### 【所感】

今回視察した、グリンスローモビリティ「ぐるっぴー」。

時速 20 km未満で、公道を走ることが出来る電動車を活用した小さな移動サービスで、私たちも 100 円で乗せて頂いた。一緒に乗っていた小学生は無料で利用し、大変利用しやすい状況を体験することができた。宮崎交通が市から委託を受け、プロの運転手が運転している。また、宮崎駅から東に車で約 10 分(約 4 km)の郊外に九州最大級の大型商業施設がオープンしたことで、中心市街地の活性化が必要となり、市の重点施策として、対策に取り組んできたことで、25%あったシャッター街も回復。「歩きたくなる街づくり」に、ぐるっぴーが大きく貢献している。

その取組みは、帯広市でも参考にすべき点が沢山あった。中心市街地の活性化に対する強い思いが、実現につながることを学んだ。

